

日本共産党久喜市議団 石田としはる活動ニュース

2016年6月号 no.13号
Tel 52-7260 fax 52-9565
メール ishida00@apricot.ocn.ne.jp
「久喜市議団ブログ」開設中 検索



南栗橋駅



風の強い日でしたが沢山の方が募金にご協力下さいました。ありがとうございました。

28日と29日の2日間参加しました。一日も早く元の生活にと願っています。

ヨーカドー前



日時	募金場所	金額(円)	参加議員数
4月27日	栗橋駅	39,800	5
	鷺宮駅	18,195	3
4月28日	久喜駅	47,667	10
	南栗橋駅	12,245	6
	東鷺宮駅	22,840	6
4月29日	イトーヨーカドー久喜店	27,908	10
	モラージュ菖蒲	38,666	4

集まった募金は5月2日に日本赤十字社へ送金されました。総額は各議員五千円を含めて、342,321円でした。

熊本地震被災地に支援を！
議会で義援金活動に取り組む

久喜市からも支援物資が

久喜市では、被災者を支援するため、支援物資を送っています。

・飲料水(久喜の水)500ccペットボトル 5,040本

・アルファ米 2千食

・ウエットタオル 10,000枚

トラックは4月20日出発、4月21日到着。

◆議員団では、災害支援を学ぶ意味からも、今後、市職員の派遣などが必要と考えます。

大地震 埼玉県は大丈夫か？

地震の専門家によれば、「日本列島は4つの大陸を移動するプレートの境界や間近に位置し、現にプレートは移動しエネルギーもたまっている。今回のような『活断層』も列島各地を縦横無尽に走り『南海トラフ』や『首都直下型』地震など、こうした巨大地震が明日にも起こるかもしれない、連動して火山の爆発も有り得る」としています。

「久喜にも断層はあるが…」

久喜断層は元荒川構造帯の北東に位置している。久喜市内の清久(清久地区)より太田袋(江面地区)に連なる地震地塊の境界が、その位置や規模からして久喜断層にあたるものとみられています。

2010年には独立行政法人産業技術総合研究所が行った調査結果が出され、反射法地震探査にて地表面より深度1キロメートル付近まで調査しましたが、断層状の変形は発見されませんでした。

皆さんからいただいた声を届けて来ました。どんな小さなことでも必ず行政に届けます。

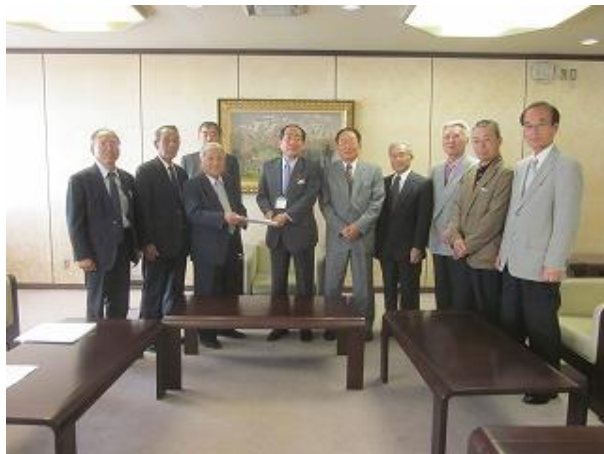
住みよい栗橋地域を共につくりましょう！

- ◆小右衛門の道路修理、2016年度道路新設で実施予算化。土地買収は終了。
- ◆郵便局前の段差解消に向けたバリアフリー化。局長さんのご努力で完成。
- ◆イトーピアの歩道、高い段差解消に2015年度から改良開始、継続中。
- ◆間鎌 深い排水路脇の道路、通学時危険、安全対策が講じられます。
- ◆栗橋東6丁目(栗橋ハイツ)の冠水対策、区長さんのご努力もあり完成。
- ◆栗橋東3丁目 排水路の蓋、騒音対策。蓋の取り替え2016年度予算化。

長年の間、雨が降ると必ず冠水していました。2年がかりの工事も、国の予算でようやく完成。これで冠水しなくなるかな。(東6丁目)



「済生会栗橋病院は市民の命と健康を守る拠点」 移転は決まっています！「要望書」提出！



田中市長に要望する地元の議員、区長 (4/26)

「存続」を求め地元議員と区長
で市長・議長・済生会へ

済生会栗橋病院と加須市で「移転」の覚書を締結したことに対して、地元栗橋では衝撃を持って受け止められ、不安の声が上がっています。

済生会栗橋病院は、栗橋町が久喜市と合併する以前の平成元年に、栗橋町・医師会・地元住民が一体となって誘致した病院で、地域医療の要を担ってきた病院です。特に地域の医療連携では、検査機器や入院病床を持ち、重篤な病氣・手術などを担う「急性期病院」としての役割を果たしてきました。この部門が移転するとすれば、地元住民の「いのち」に直結すると考えられます。

栗橋地区では、地元住民の不安の声を受け止め、4月17日、栗橋地区選出議員5名、(山田達雄、柿沼繁男、並木隆一、矢崎康、石田利春)と地元46行政区の区長さんの内43名が集まり、久喜市・久喜市議会や

済生会栗橋病院へ存続を求めていくことを確認しました。

4月26日には、地元区長さん全員の署名を添えた要望書を、田中暄二久喜市長、井上忠昭久喜市議会議長に提出。(写真) 要望書では「①病棟建替えに向けた基金の創設、②建替え可能な病院敷地の確保、③リスクを伴う診療を担う公的病院への支援措置」などを求めています。

遠藤康弘済生会栗橋病院院長には、市民の生命と健康を守る拠点として留まっていきたいと要望して来ました。

加須市と「覚書」が交わされていますが「埼玉県の済生会支部理事会」で了解は得られていないようで、移転が決まったわけではありません。今後、地元栗橋地区のみならず、久喜市全域の皆さんや、近隣自治体の皆さんと力を合わせ存続に向け、力をつくしていきたいと思います。



請願書

済生会栗橋病院の加須市への移転計画に反対し、現在地または現在地周辺の医療機能の充実と強化を求める請願

平成28年7月2日

紹介議員 山田達雄
柿沼繁男
並木隆一
石田利春

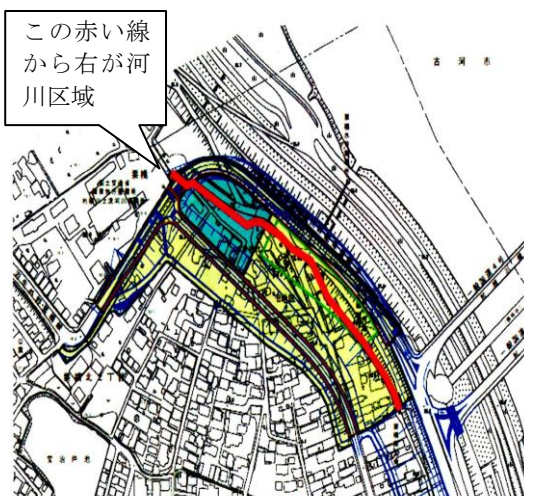
5月23日、久喜市議会に栗橋医師会(8名)と栗橋区長会(45名)で請願の提出がありました。地元から4名の議員が紹介議員になっています。

栗橋
菖蒲

都市計画の変更案が示される

栗橋北2丁目地区 利根川の強化堤防に伴う河川改修の変更が示され、主な変更は河川区域となる地区を市街化調整区域に編入、造成計画に合わせて都市計画道路の位置を変更する。地区計画、河川区域の建築物の用途や高さ等を定めるなどです。地元では栗橋関所の復元を求める声が聞かれており、地区計画に織り込んで行くことが求められています。

図面の上部が利根川の河川区域で「市街化調整区域」となります。



この赤い線から右が河川区域



菖蒲地区は、モラージュ菖蒲に隣接してバスターミナルを集約した市街地(商業施設をふくむ)を整備するための変更です。バスターミナルの規模は、大型バス7・8台程度が見込まれています。

お医者さんを増やすことが求められています。

◎東部北地区の医療の現状

(加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町)

◎埼玉県及び東部北地区の医師数

地 域	医師数		人口10万人当たり医師数	
	人数	順位	人数	順位
埼玉県	10,688人	全国9位	148.2人	全国47位
東部北地区	677人	県内14医療圏中8位	118.8人	県内14医療圏中12位

出典：平成24年12月31日現在 医師・歯科医師・薬剤師調査

◎東部北地区の救急医療体制

種 別	医療体制
三次救急医療機関	1病院※
二次救急医療機関	21医療機関(休日・夜間も、10病院の輪番制)
初期救急医療機関	休日・夜間急患診療所 在宅当番医制(休日昼間)



H26.10.1現在

※三次救急は、東部北地区と東部南地区を合わせて東部地区として1か所整備されています。

埼玉県は、人口10万人当たりの医師数を見た場合約148人で、医師の数が全国で14番少ない県です。立派な病院の建物や医療機器が揃っていても、お医者さんがいなければ病院は治療ができません。済生会栗橋病院に「救命救急センター」ができたが、救命医のお医者さんがいないことから、現在稼働していないことがそのことを示しています。国は、お医者さんを増やすと、医療費が増えるとの考えから、医師の数を「抑制」してきました。世界と比較しても決して多くありません。ここを根本的に改めることが求められています。